

S09b **Radio-loud Narrow-line Seyfert 1 Galaxies の可視偏光観測**

深沢泰司, 河口健至, 田中康之, 伊藤亮介, 秋田谷洋, 森谷友由希, 高木勝俊, 上野一誠, 川端弘治, 植村誠 (広大理), 谷津陽一, 斎藤嘉彦, 河合誠之 (東工大) (早大)

フェルミ衛星により GeV ガンマ線で輝く活動銀河核は, 従来のブレイザーに加えて, 電波銀河や Radio-loud Narrow-line Seyfert Galaxy (RL-NLSy1) が見付き, 現在フェルミで検出された RL-NLSy1 は5つとなっている. RL-NLSy1 は, 最近高い降着率を持つものとして注目されている NLSy1 の中でも, 明るい電波コアを持つものであり, 可視 440nm に対する電波 1.4GHz のフラックス比が  $R > 10$  と高いものとして定義され, NLSy1 の約7%が RL と分類されている. 渦巻銀河であるにも関わらずジェットを持つ天体としても興味深い. この天体からの多波長スペクトル SED は, FSRQ 型ブレイザーと似ており, 強力なジェットからの放射と言われているが, 依然としてジェットの描像が不明であり, また可視~X線にかけての放射機構もはっきりしない点が多く, 高い降着率に伴う円盤由来の放射も含まれると考えられている. そこで, 我々は GeV ガンマ線の検出に関係なく, Radio Loudness  $R$  の大きく R-band で 17 等より明るい約 10 個の NLSy1 を系統的に, 広島大学かなた望遠鏡で可視偏光観測を行なった. 結果,  $R$  の大きめのものが偏光度が大きい傾向が示唆された. 伊藤講演で報告のあるように, PWN J0948+0022 のように増光時に高い偏光を示す傾向も報告されていることから, 現在は, 東工大 MITSuME 望遠鏡との連携によって,  $R > 10$  の NLSy1 について突発増光に伴う偏光度の観測を進めている. 講演では, 可視偏光観測の系統的な結果と連携モニター観測の現状を紹介する.